

令和8年5月25日

横浜市立東希望が丘小学校 学校だより



東希小だより 6月号

「咲こう 輝こう マーガレットのように」

スポーツフェスの輝き

校長 栗田 朋子

23日(土)に開催された「東希スポーツフェスティバル2026」には、多くの保護者の皆様にお越しいただき、温かいご声援を賜りましたこと、改めてお礼申し上げます。

練習期間中は、夏を先取りしたような暑い日も多くありましたが、子どもたちはこまめに水分補給を行いながら、日々の練習に励んできました。そして、その成果を発揮し、本番を迎えることができました。

当日は、たくさんの声援を力に変え、真剣なまなざしで演技や競技に臨む子どもたちの姿が見られました。その一つ一つの場面から、子どもたちの確かな成長を感じることができました。

さて、スポーツフェスティバルの成功の陰には、高学年の活躍があります。特に、児童が担当する各系の活動は欠かすことができません。

実行委員、応援団、大プログラム、低学年サポート、審判、採点、放送、用具など、それぞれの係に分かれ、児童委員会活動を基盤として役割分担を行っています。どの係も2回の打ち合わせを重ねましたが、19日(火)2回目は本番さながらに、実際の動きを取り入れたシミュレーションを行いました。例えば放送係は、実際の映像を見ながら実況の練習を行い、「赤速い。赤速い。白が追い抜きました。」といったように、自分たちで言葉を選びながら状況を伝える工夫をしていました。その様子を見ていた周りの子どもたちも、一緒に臨場感を味わっていました。また、審判係や採点係は実際にかっこを行い、走ってきた友達に駆け寄って順位を伝えたり、得点を計算したりしました。用具係は、競技で使用する用具を所定の位置に、きびきびとした動きで配置したり、片付けたりしていました。大プログラム係は協力しながら彩色や縁取りを行い、見やすい掲示物を完成させていました。応援団はグラウンドいっぱい大きな声を響かせ、練習に励んでいました。

このように、どの係にも共通して見られたのは、子どもたちが自ら進んで仕事に取り組み、それぞれの役割に対して誇りと責任をもって行動していた姿です。打ち合わせを終えた子どもたちに「本番も大丈夫かな?」と尋ねると、「はい」「大丈夫です」と力強い声が返ってきました。そのはっきりとした受け答えと笑顔から、高学年としてのたくましさを感じました。

演技や競技で活躍する子どもたちの姿の陰には、このような高学年の支えがあります。保護者の皆様にも、その活躍にお気づきいただけたのではないのでしょうか。低・中学年の子どもたちは、演技や競技だけでなく、スポーツフェスティバルを支える高学年の姿にあこがれ、やがて同じように成長していくことと思います。

今回のスポーツフェスティバルは、子どもたち一人ひとりが、自分にできることに全力で取り組んだとても意義のある行事となりました。

最後になりますが、終了後の片付けにおいても、多くの保護者の皆様にご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

